

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471001378
法人名	有限会社リラ福祉サービス
事業所名	こすずめの里
訪問調査日	2015年2月24日
評価確定日	2015年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

### 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1471001378	事業の開始年月日	平成16年11月1日
		指定年月日	平成16年11月1日
法人名	有限会社リラ福祉サービス		
事業所名	こすずめの里		
所在地	( 244-0004 ) 横浜市戸塚区小雀町2058-11		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 名	
		宿泊定員 名	
		定員計 9名	
		ユニット数 1ユニット	
自己評価作成日	平成27年1月24日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月22日

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成27年2月24日	評価機関 評価決定日	平成27年3月31日

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

①このグループホームは(有)リラ福祉サービスの経営です。平成16年11月に、この法人設立に合わせ、このグループホームこすずめの里を開設しました。ホームでは認知症デイサービスと認知症ショートステイを併せて実施しています。(有)リラ福祉サービスは、利用者のニーズに合わせて、順次、訪問介護、居宅介護支援、小規模多機能型居宅介護、住宅型有料老人ホーム、福祉用具、介護タクシーなどの介護保険事業所の他、福祉教育のカレッジを開設し、地域の福祉に寄与しています。カレッジでは介護福祉士初任者研修と基礎研修などを行っています。

②立地は、JR大船駅よりバスで約10分、最寄り停留所より徒歩7分程度の、富士山が一望できる高台で、緑豊かな自然に恵まれた住宅地の一角にあります。ホームの運営理念は、「入居者が主役・スタッフは伴奏者、家庭の目線で目配り・気配り・心配り スタッフも入居希望がわくケア」としており、この理念は創業時、スタッフによって作られ、玄関から入って良く目に付くところに掲示し、研修等で共有を図り、理念に沿ったケアを行っています。同じ建物内で実施するデイサービスは、1日3名以内の受け入れを行い、ショートステイは1日1名程度で受け入れています。登録によるよりも、単発の利用の方が多く、地域のニーズに対応してご家族に喜ばれ、地域に貢献しています。地域への貢献がこのホームのポリシーの1つです。

③ホームでは自治会に加入し、地域の清掃、ごみ拾いに入居者が職員と共に参加し、入居者の散歩時には職員から声をかけて挨拶を行い、笑顔で応えて頂き、また、ホームの行事には近隣の方の参加もあり、地域との交流が日常的に行われています。グループホーム周囲の庭には、オーナーのご主人の丹精になる夏みかん・温州みかん・ブドウ・びわ・いちじく・ブラックベリー等々、沢山の果物のなる木を植え、収穫し、ジャム等にし、季節を感じて頂いています。1ユニットの良さでアットホームな温かいホームです。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・晴天の日は散歩に出かけ、富士山・四季折々の景色や風などを肌で感じ楽しむことができる。  
 ・午前午後と1日2回の身体体操・嚙下体操、ぬり絵・カラオケ等取り組みやすいよう声掛けをしている。  
 ・庭には、夏みかん・温州みかん・ブドウ・びわ・いちじく・ブラックベリー等々沢山の果物を収穫でき、ジャム等にし、季節を感じて頂くことができる。

**【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】**

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	こすずめの里
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	引き継ぎ・研修・実践・初任者研修受入れ・実務者研修受入れにより、各スタッフが研修生への関わりの中で理念を念頭におき個々の認識の共有につながっている。	理念は「入居者が主役・スタッフは伴奏者」「家庭の目線で目配り・気配り・心配り スタッフも入居希望がわくケア」であり、玄関に入ったら良く見える壁に掲示すると共に、研修などで共有認識を図っています。理念は引き継ぎ時・研修時・実施時・初任者受入れ研修時・実務者研修受入れ時などにより、各スタッフが関わりの中で理念を徹底し、個々の認識の共有につながっています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアグループの歌の会、オカリナ演奏を通し、歌を歌い会話を楽しんでいる。自治会に加入し地域行事のゴミ拾いには、必ず参加している。 障がい者グループホーム・地域ケアプラザの行事参加に楽しんでいる。	自治会に加入し、地域の清掃、ごみ拾いなどの行事には必ず参加し、また、クリスマス会などのホームの行事に地域の人が見えることもあります。入居者の散歩時にはこちらから声をかけて挨拶し、笑顔でのお返しを受け、ホームを知ってもらうよう努めています。更にホームでは地域ボランティアグループの歌の会、オカリナ演奏を通し、歌を唄い会話を楽しんでいます。手話サークルの方やマジックショーも来て来てくれています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時等、近隣の方と積極的に声をかけ、ご利用者様との交流を支援している。運営推進会議等での地域の方々へ認知症についてのパンフレットを配布し、理解・支援を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月・4月・6月・8月・10月・12月の6回実施。 地域包括支援センター職員、民生委員、町内役員等、活発な意見交換ができ、理解しあえる場としてサービスの向上につながっている。	2ヶ月に1回偶数月に、町内会役員、民生委員、包括支援センター職員、ご家族等の参加で運営推進会議を実施し、ホーム概況と今後の行事計画を報告し、災害時協力をお願いもして、参加者から意見や提案などを頂き、理解し合える場としています。会議の結果は、議事録で職員間の共有を図っています。入居待機の方も居て、一部はこの認知症デイを利用して、一部は老健を利用して待っておられます。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	戸塚区高齢支援担当者、生活保護課、原宿地域包括支援センター、横浜市健康福祉局高齢施設課・福祉課、神奈川県保健福祉局高齢施設課・障害サービス課、鎌倉市高齢者いきいき課等とは、連携があり、サービスの向上に取り組んでいる。	戸塚区高齢支援担当者、生活保護課、原宿地域包括支援センター、横浜市健康福祉局高齢施設課・福祉課、神奈川県保健福祉局高齢施設課・障害サービス課、鎌倉市高齢者いきいき課等とは連携があり、諸々情報を収集し、研修情報等も得て職員が参加し、サービスの向上に活かしています。横浜市のグループホーム連絡協議会に加入し意見交換をしています。生活保護受給者の相談では、市の窓口の生活保護課と連絡交流があります。100才を超えた入居者がおり、区役所は様子を見に来て来てくれています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を持ち、全職員が正しく理解できるよう努めている。 生命・身体を保護するために対応手段がなく、緊急やむを得ず身体拘束を行う場合は、切迫性・非代替性一時性の三つの要件について検討し記録をする。 玄関の施錠は夜間以外はしていない。	身体拘束をしないケアについては、法人内で研修を持ち、全職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアの実施に努めています。生命・身体を保護するために対応手段がなく、緊急やむを得ず身体拘束を行う場合は、切迫性・非代替性一時性の三つの要件について充分検討し、ご家族の承認を得、記録に残すことを徹底しています。（実例はありません） 玄関は夜間以外は施錠していません。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を持ち、全職員が正しく理解できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を持ち、全職員が正しく理解できるよう高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、不安や疑問点を持たないよう十分な配慮をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来里された時等、近況報告と共に意見・要望等、気軽に話せるような環境作りを心がけて対応させていただいている。 玄関に意見箱を用意している。	ご家族のご意見は来訪時や運営推進会議出席時に、ご意見ご要望を伺うようにしています。また来訪時には近況報告を行い、気軽に話せるような環境作りを心がけています。玄関に意見箱も用意してあります。頂いたご意見、ご要望については、カンファレンスで検討の上、運営に反映させ、結果は家族に報告しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	有限会社ではあるがワーカーズコレクティブに近い運営で、集会は設定していないが、出勤記録を提出時等記入できるようになっている折に触れ問いかけて反映させている。	有限会社ではありますが、各事業所の責任者の想いを尊重したワーカーズコレクティブに近い運営を進めており、管理者はミーティング等を通じて職員間で提案としての意見を出してもらい、運営に反映させています。法人での集会は設定せず、情報の収集は出勤記録を提出時等記入した記録及び必要に応じた問いかけに止め、自主性を尊重してくれています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設時より社会保険労務士エールと契約し、労務環境を整えている。 処遇改善交付金の一部もこれに当てている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「主婦が階段を上れる職業である」と言い続けている。（3年→介護福祉士・5年→介護支援専門員・社会福祉士等） 研修参加は申し出により自主性を重んじ強要はしていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修会・交換研修受入れ等の活動を通じてサービスの質を向上させていく取組をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと時間をかけ話を聞き、耳を傾け、ありのままの利用者様を受け入れることを心がけることで安心を確保し関係づくりに努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間の制限を設けず出入りでき、電話での対応も気軽にいつでも対応できる環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めができるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、人生の先輩として接している。家事など、一人一人できる事に参加して頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共同生活の細かな部分の受け入れが混乱される利用者を家族との絆を大切にしながら協力を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若いころからのサークル等の友人から手紙やご家族・親戚の方からの手紙や電話等、途切れることの無いよう支援に努めている。	若いころからのサークル等の友人やご家族・親戚の方からの手紙や電話、の手紙や電話等が途切れることの無いよう支援に努めています。電話で今までの、ご近所の人たちに電話することがあります。来所、面接などは本人又はご家族の意向を確認の上、支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	職員が間に入り交流を支援し、ホームの家族と なれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家 族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	会議等にも継続して出席をいただき必要に応じ 相談を受けている。 退去された方の安否確認をしたい衝動に駆られ るが配慮して我慢している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている。	入居時より、ご自分の馴染みの家具等を持ち込 まれ本人の意向の把握に努め、添えるように心 がけている。	意思表示が出来る人には、日頃の会話を通じて 直接聞いて思いの把握に努めています。意思表 示が難しい人の場合は、表情や行動から汲み取 るようにし、又、家族からの情報の生活歴も参考 にしながら、一人ひとりの思いや意向を把握に努 めています。ホームとしては「絶対に寝たきりにさ せない」を、合言葉にケアに努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	情報共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	情報共有し把握に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員と話し合いながら、意見やアイデアを出し合いながら、現状に即した介護計画を作成し、月に1度のモニタリングを実施している。	本人、家族、職員と話し合い、意見やアイデアを出し合いながら、現状に即した介護計画を作成、毎月1度のモニタリングを実施しています。介護計画の見直しは、基本的には3ヶ月サイクルで行っています。状態に大きな変化が見られる場合は、随時見直しを行っています。ご家族とのカンファレンスは来訪時に併せて実施し、意見を反映しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活記録へ日々の様子ケアの実践結果、気づきや工夫を引継ぎ時やミニカンファレンス時に共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイ、デイサービスなどを含め家族や利用者様に合ったサービスを心がけている。ご家族の病気や休養等の事情を考慮し柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に元消防署長、音楽愛好家が居住し支援がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	福祉施設往診専門の「長後クリニック」1か月2回の訪問診療があり緊急連絡24時間対応で電話連絡対応での指示を頂く。必要があれば先生の緊急往診がある。訪問歯科「石川歯科医院」での訪問診療がある。	福祉施設往診専門のクリニックが1か月、各個人別に2回の訪問診療があり、緊急連絡には24時間対応で電話連絡が可能となっています。また、必要があれば緊急往診にも応じてもらっています。従来のかかりつけ医の継続受診が可能なのは伝えてあります。(今は居ません) 歯科受診は、訪問歯科の往診があります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中での気づきを看護師にも伝え、相談している。 看護師も健康状態を本人やスタッフに確認し適切な受診や、看護を個々に受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、安心して治療をして頂き病院関係者、家族と情報交換や相談に努めている。入院時・お見舞い時、退院時等行った時など看護師、栄養士、薬剤師と密に話をするよう心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、主治医、看護師、と繰り返し話し合いを行い、できる事を十分に説明しながら方針を共有し、本人、家族の気持ちを最大限に考慮してチームで支援している。25年1名・26年2名看取りを行った。	終末期については、本人、家族、主治医、看護師、と繰り返し話し合いを行い、できる事を十分に説明しながら方針を共有し、本人、家族の気持ちを最大限に考慮してチームで支援するようにしています。25年1名・26年2名看取りを行ないました。基本的にはご家族の判断であり、医師とも充分相談し、最終判断をして頂いています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	戸塚消防署・大正消防署より消防隊員の方の指導にてAEDの使い方、救命処置・止血法・応急担架の作り方・搬送方法等ご利用者様と一緒にホーム内での講習に参加している。 夜間想定も訓練も実施。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	戸塚消防署・大正消防署より消防隊員の方より防災指導・火災通報装置の使用訓練を受ける。ご利用者様・職員は2か月に1回の訓練を実施している。 近隣の方には災害直後の避難場所として、提供を依頼し了解を得ている。	戸塚消防署・大正消防署の消防隊員の方に防災指導・火災通報装置の使用訓練などを受けています。利用者・職員は2か月に1回、様々な災害を想定した防災訓練を実施しています。近隣の方には災害直後の避難場所の提供を依頼し、了解を得ています。ホームでは災害時通報連絡網を整備してあります。設備としてスプリンクラー設置は消防法で設置対象外であるが安全の上から法人代表者の意向で設置しています。又、非常食、衛生材料、プロパンコンロ、懐中電灯など備蓄を備えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格・生活歴を尊重し、誇りやプライバシーを尊重した対応、ご本人が選べる言葉かけ、言葉遣いを心がけている。	一人一人の人格・生活歴を尊重し、誇りやプライバシーを尊重した対応に心がけ、言葉遣いにも留意しています。実際の介護の場に於いても、特にトイレ誘導や失敗等については、さり気なく行うよう心がけています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思が伝えやすいよう、選択がしやすいよう話しかけ心がけている。 意思を表しにくいご利用者様には、手を握りゆっくりと選択できやすいよう話しかけ、自己決定できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新聞・読書・編み物、一人一人のペースを大切に支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪染めを希望されるとき、ご本人の意向を配慮している。 毛染め液・乳液・化粧品等一緒に買い物へ出かけるなど支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会の手作りケーキ、おやつ作り、おせち料理詰め、庭の様々な果実のジャム作り等協同作成し楽しみながら関わられるよう支援している。	食事では刻み食、流動食など、一人ひとりの健康状況に合わせた食事提供をして、その人のペースに合わせて職員との会話を楽しみながら食事支援を行っています。食事は自前のメニューで、買い物はオーナーのご主人が担当し、美味しい食事の提供に努めています。調理のお手伝いはして頂いていませんが、誕生会の手作りケーキ、おやつ作り、おせち料理詰め、庭の様々な果実のジャム作り等、協同作成し、楽しみながら関わられるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は1日を通じ確保できるよう、声掛けし、嚥下状態のよくない方にはとろみをつけ摂取して頂いている。 食事等一人一人のご希望、状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアに重点を置いている、声掛けでできる方でも、職員ができるだけ関わらせて頂き、清潔を保つよう心がけている。義歯洗浄を行っている。 必要に応じ訪問歯科医院への連絡、対応をさせて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄意思表示のない方でも毎朝便座に座っていただき、マッサージをしながら排便を促させて頂いている。 声掛けをし、トイレでの排泄、自立支援を心がけている。 バルーンの方の、尿量、透明度等日々の排尿状態の記録を行っている。	「排泄管理表」により一人ひとりの排泄パターンを全職員で把握し、時間を見計らったトイレ誘導で適切な支援を行っています。排泄の意思表示がない方でも、毎朝便座に座ってもらい、マッサージをしながら排便を促進するケアを行っています。声掛けをし、トイレでの排泄、自立の支援を心がけています。便秘対策には繊維質の食べ物、ヨーグルトなどを試みて、最終的には下剤を処方して貰っています。バルーンの方の尿量、透明度等、日々の排尿状態の記録をつけています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	マッサージしながらの排便・排尿習慣を心がけている。 朝、夕の体操、水分摂取への個々への声掛けに取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタルチェックをしながら無理強いすることなく本人の意向を確認しながら支援をしている。 髪染め、便失禁等の対応は臨機応変に行っている。 ゆず湯・しょうぶ湯等季節行事に合わせ工夫をしている。	入浴は、清潔保持、身体観察、体調変化の把握などが重要な役割があると考え、バイタルチェックと共に無理強いすることなく本人の意向を確認しながら、一人ひとりの希望に合わせて入浴支援を行っています。拒否される方には、再度の声かけ等で入浴を促しています。季節には菖蒲湯や柚子湯などを楽しめるように工夫をしています。またホームでは髪染め、便失禁等の対応は臨機応変も対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は足を伸ばすためベッドで横になれるような声掛けをさせて頂き対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更等往診後朝の引継ぎ時に説明、服薬説明書は職員全員共有している。 リーダーは服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮して頂く誕生会・クリスマス会・お正月等、楽しみながらのケーキ作りやおせち作り等支援を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課として初詣・花見・散策・買い物・地域バザー・法人内での各事業所でのイベント等スタッフと一緒に掛け、支援に努めている。 ご家族と買い物、散歩、旅行等を楽しまれることもある。	散歩は日課とし、初詣・花見・散策・買い物・地域バザー・法人内での各事業所でのイベント等、スタッフと一緒に掛け、楽しんでいます。お風呂の無い日は出来るだけ散歩に出るようにしています。日々の関わりの中から希望を聞き、誘い、車椅子の方にも外出が出来るよう支援を心掛けています。お花見は歩けない人が多いので、車で出かけています。また、ご家族と買い物や、散歩、旅行等を楽しまれることもあります。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等、一緒に掛け精算をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親せき、友人等電話の取次ぎ、手紙のやり取り等支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾っている。 庭で採れた夏みかん、イチジク、ブドウ等の食材等季節感を味わっていただくよう工夫している。 壁には、四季折々の花、富士山の写真を飾っている。	玄関には季節の花を飾っています。ここは食事の出来る大きなリビング・ダイニングルームの他に、玄関とリビングの間に応接スペースが広くとられ、民家改良型の住宅の良さ、余裕ある造りになっています。又、ホームの庭で採れた桃、桑の実、ブルーベリー、イチジク、ぶどう、夏みかん、の他、茗荷、大葉、明日葉を食用に活用できることで、利用者は季節感が味わえています。壁には、四季折々の花、富士山の写真を飾っています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者様同士の席順等を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具・思い出の品・仏壇等お一人お一人の居心地よく暮らせるよう工夫している。	開設当初より、畳の部屋が4つあり、畳を好まれる方もいます。各人の部屋には、使い慣れた思い出の品が持ち込まれていて、姿見や、椅子、ベッド、観葉植物、書物等と共に家族写真、ぬいぐるみ、仏壇等も置かれ、一人ひとりの思いの設えで生活拠点が作られています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・洗面所・浴室・廊下等手摺を使用して頂けるよう工夫してある。		

目 標 達 成 計 画

事業所

こすずめの里

作成日

平成27年2月24日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災避難訓練を地域の方とも連携をし行う	地域の方との密な連携	防災避難訓練を地域の方との密な連携をとり、職員間での情報共有を取り組む	一年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。